

HbA1c 国際標準化への対応に関するお知らせ

拝啓 平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび日本糖尿病学会は、厚生労働省・日本医師会・保険者団体を初めとする関係諸団体との協議の結果「日常臨床及び特定健診・保健指導におけるHbA1c国際標準化の基本方針」を発表いたしました。それにともない当社と致しましてもHbA1c国際標準化に対応すべく、下記の通り検査内容の変更を実施させていただきますのでご案内いたします。

誠に勝手ではございますが、何卒ご理解いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

<実施日>

2012年4月1日以降のHbA1c受託分より実施

<変更内容>

項目コード	項目名称	検体量	保存方法	検査方法	基準値	日数	容器	備考
0257	HbA1c (NGSP)	EDTA2K・NaF加 全血2.0ml	冷蔵	ラテックス凝集法	4.6～6.2 (%)	1	G	新規受託項目
0255	HbA1c (JDS)	EDTA2K・NaF加 全血2.0ml	冷蔵	ラテックス凝集法	4.3～5.8 (%)	1	G	「ヘモグロビンA1c」 名称変更

①日常臨床について

HbA1cをご依頼いただいた場合、NGSP値にて検査いたします。また、当面の間におきましてJDS値も報告書へ併記いたします。なお、NGSP値とJDS値は以下の式で相互に換算が可能です。

$$\text{NGSP値 (\%)} = 1.02 \times \text{JDS値 (\%)} + 0.25\% \quad \dots(1)$$

$$\text{JDS値 (\%)} = 0.980 \times \text{NGSP値 (\%)} - 0.245\% \quad \dots(2)$$

$$\text{簡易的には} \quad \text{JDS値} = \text{NGSP値} - 0.4\%$$

$$\text{換算式(2)より} \quad \left[\begin{array}{l} \text{NGSP値で5.2\%以下} : \text{JDS値(\%)} = \text{NGSP値(\%)} - 0.3\% \\ \text{NGSP値で5.3\%～10.2\%} : \text{JDS値(\%)} = \text{NGSP値(\%)} - 0.4\% \\ \text{NGSP値で10.3\%～15.2\%} : \text{JDS値(\%)} = \text{NGSP値(\%)} - 0.5\% \end{array} \right.$$

NGSP値は従来のJDS値より凡そ0.4%高くなり、NGSP値から0.4%引くことで凡そJDS値になります。

②糖尿病の診断について

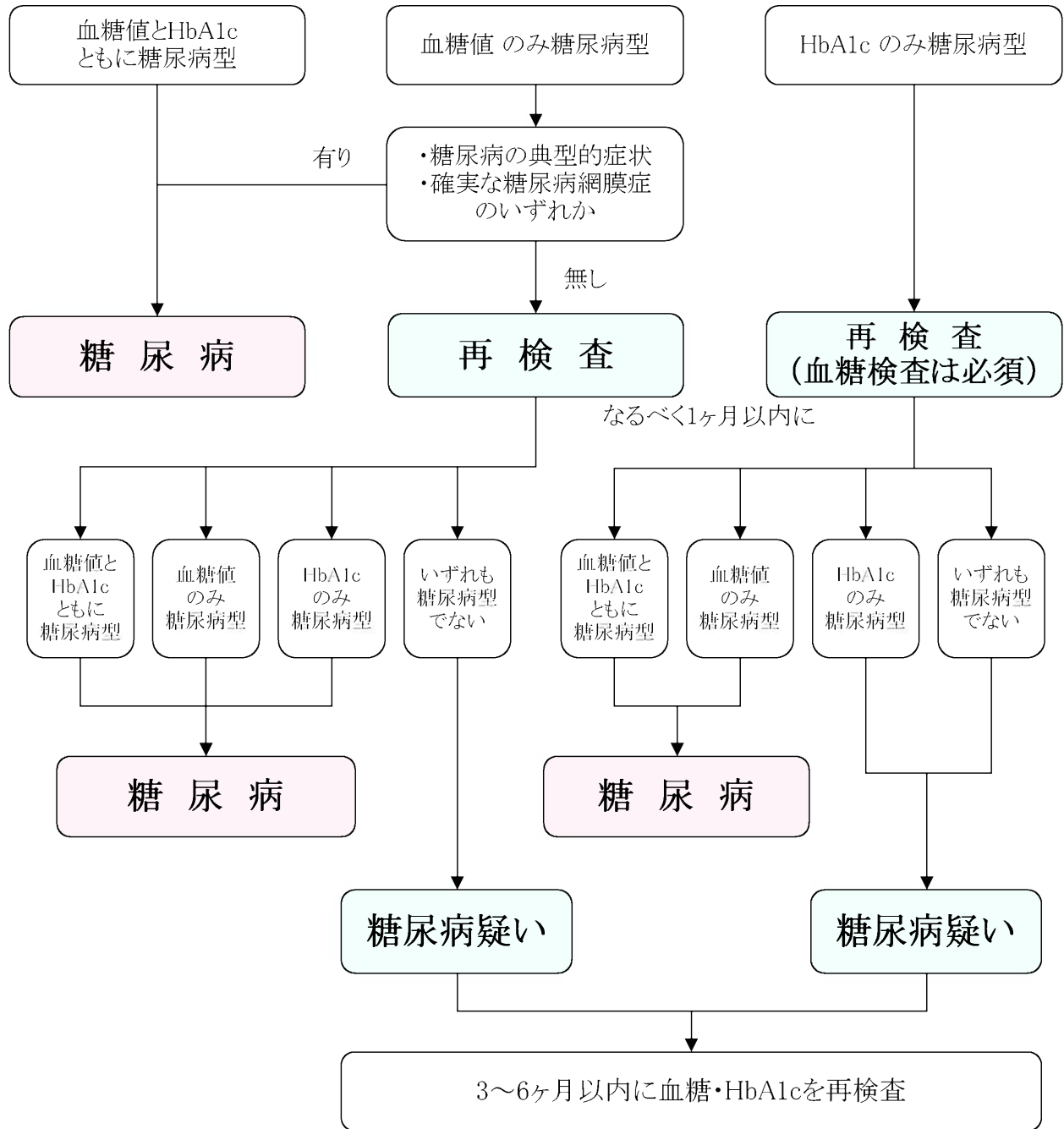
平成24年3月31日までの従来のJDS値を用いた診断では6.1%以上を糖尿病型としていますが、平成24年4月1日以降のNGSP値を用いた診断では6.5%以上を糖尿病型とします。

③注意点

NGSP値とJDS値が混在しますので、基準範囲等も含め、ご利用される値がいずれかであるかを十分ご確認いただけますようお願いいたします。

▼糖尿病の臨床診断フローチャート

糖尿病型 ・血糖値(空腹時 $\geq 126\text{mg/dl}$ 、OGTT2時間 $\geq 200\text{mg/dl}$ 、随時 $\geq 200\text{mg/dl}$ のいずれか)
 ・HbA1c(NGSP) $\geq 6.5\%$ [HbA1c(JDS) $\geq 6.1\%$]



「糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告」より

▼HbA1cによる血糖コントロールの指標と評価について

平成24年4月1日以降は、現行の血糖コントロールの指標と評価に用いられたJDS値をNGSP値に変換した値にてご報告いたします。

指標	優	良	可		不可
			不十分	不良	
HbA1c (NGSP) [%]	6.2未満	6.2~6.9未満	6.9~7.4未満	7.4~8.4未満	8.4以上
HbA1c (JDS) [%]	5.8未満	5.8~6.5未満	6.5~7.0未満	7.0~8.0未満	8.0以上
空腹時血糖値 [mg/dl]	80~110未満	110~130未満	130~160未満		160以上
食後2時間血糖値 [mg/dl]	80~140未満	140~180未満	180~220未満		220以上

変更になります

「日本糖尿病学会編：糖尿病治療ガイドライン2010」より